

日本地球掘削科学コンソーシアム 2008年度会員総会  
議事録

日時：2008年4月6日（日） 14:00～17:00

場所：海洋研究開発機構東京事務所 セミナー室

**総会議事次第**

1. 開会挨拶（IODP部会長）
2. J-DESC会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事次第確認
5. 2007年度活動報告  
（コンソーシアム事務局・IODP部会執行部会部会長・陸上掘削部会執行部）
6. 2007年度決算報告・承認（コンソーシアム事務局・監査役）
7. 陸上掘削部会・執行部会長の選任・承認（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
8. 陸上掘削部会・執行部会長挨拶
9. その他役員選任（J-DESC理事会・コンソーシアム事務局）
  - (1)監査役
  - (2)対AESTO担当役
  - (3)J-DESC理事
  - (4)IODP部会幹事
  - (5)陸上掘削部会幹事
10. 2008年度活動方針について  
（IODP部会執行部会部会長補佐・陸上掘削執行部会部会長）
11. 2008年度予算案提案・承認（コンソーシアム事務局）
12. その他
  - (1)J-DESC会員機関現状報告
  - (2)J-DESC法人化WG報告  
（徳山WG長・IODP部会執行部会部会長・陸上掘削部会執行部会部会長）
  - (3)地球掘削科学セッション・J-DESCタウンホールミーティングの実施について
  - (4)その他
13. 議長解任
14. 閉会挨拶（陸上掘削部会長）

**配布資料**

- |       |  |
|-------|--|
| 資料1   | コンソーシアム2007年度活動報告                          |
| 資料2   | IODP部会2007年度活動報告                           |
| 資料3   | 陸上掘削部会2007年度活動報告                           |
| 資料4   | 2007年度収支決算報告・会計監査報告                        |
| 資料5   | IODP部会2008年度活動方針（案）                        |
| 資料6   | 陸上掘削部会2008年度活動方針（案）                        |
| 資料7   | 2008年度執行体制（案）                              |
| 資料8   | 2008年度収支予算（案）                              |
| 資料9   | J-DESC会員機関現状報告                             |
| 資料10  | 地球掘削科学セッションのご案内                            |
| 追加資料1 | KCCとIODPにおける掘削コアの活用促進に関する微化石分野の活動方針に対する承認願 |

## 1. 開会挨拶

IODP 執行部会長：川幡部会長

皆様こんにちは。川幡と申します。昨年4月から IODP 部会長を務めております。一年間様々な努力を重ねて参りました。本日は色々問題点も出るかもしれませんが、明日は今日よりよいということを感じています。皆様忌憚無きご意見をお願いいたします。本日は昨年度報告と来年度の計画をお話します。よろしくをお願いいたします。

## 2. J-DESC 会長挨拶

J-DESC 会長：斎藤靖二

J-DESC の活動はニューズレターなどで紹介しておりますが、本日も詳しく紹介できることと思います。昨年度にはちきゅうが発進し、南海掘削が続いています。J-DESC も上・下半期会員提案型を一件ずつ採用するなど支援をつづけています。他にもこれまで会員機関のボランティアだったコアスクールを J-DESC コアスクールとして会員に還元しようと努力してまいりました。外部からも高い評価をいただいております。今後の掘削科学の研究がいつそう発展するように期待して、支援を続けていければと思っております。昨今学術研究上の活動に関連して法人法・税制の改正など、世間の荒波は教育・文化的事業に暖かい傾向にはありません。法人公益性のガイドライン中には出版事業が社会貢献と認められず、収益事業に入っています。収益事業と判定されると三割の課税、ということも発生いたします。文科省はじめ省庁からコメントも出ているようですが、教育研究活動に対する皆様のさらなるご支持を賜りたく思います。地球科学発展の上で色々な機関にお願いしながらやっていかねばなりません。J-DESC としては純粋に「面白い」ことを追及できる場を作っていければ良いのではないかと思います。昨年度は仕事が系統的に進められるようになりつつあります。簡単ですがご挨拶に代えます。

## 3. 議長選任

コンソーシアム規約第8条4に基づき、出席している正会員の中から、議長の立候補を求めたがいなかったため、事務局より同志社大学の林田 明 氏が推薦され、賛成多数により、選任された。

また、コンソーシアム規約第8条5に基づき、事務局から今回の総会が、出席正会員24機関、委任状23機関、合計47機関：正会員過半数以上の出席により、総会が成立することが報告された。

## 4. 議事次第確認

議事次第（案）ならびに追加議題が、出席者全員により承認された

## 5. 2007年度活動報告

事務局：J-DESC 活動共通部分報告。

- ・ 理事会、2008年3月総会開催議事次第承認理事会。メール開催。
- ・ 会員提案型活動経費、上半期一軒、下半期一軒予算総額150万円を2007年度よりコアスクールを別枠で開催したので2006年度に比べ減額。採択は多田氏・黒田氏
- ・ JPGU 2007にて地球掘削科学セッション実施
- ・ シンポジウム4件支援

- ・ IODP/ICDP 合同懇談会開催（12月20日）
- ・ ニュースレター英語版発行、Vol.2 日本語版も4月に発行
- ・ J-DESC Update 送付開始
- ・ 会員機関状況報告

一質問

特になし

各部会報告

**IODP 活動報告**：川幡部会長 00：15：22

資料2に基づきスライドプレゼンテーションによって、簡単にIODP部会の活動報告が行われた（資料より）

- ・ 執行部会ほぼ毎月ペースで開催。毎回テーマを持って集中議論
- ・ 2007年10月締め切りのプロポーザル提出状況：17提出済み、内新規8
- ・ 普及活動、特に3月はDRILLSとの共催にてキャンペーンを行った。DRILLSは来年も継続予定（スライドより）

#### 1 執行部員選出の配慮

- ・ SASEC/SPC/SSEPなどがカバーできるように。大学・専門分野にムラの無い様に
- ・ 研究者数の多いJAMSTEC、AISTには今後も継続して組織代表を2名お願いしていく
- ・ 高知コアセンターではコアスクール、アフタークルーズなどを含めて対応していきたい

#### 2 ボトムアップで迅速対応

- ・ 4月はじめにアンケート2万数千字の資料を基に議論
- ・ 毎月討議→結論→翌月決定→実行 を12ヶ月繰り返してきた。討議内容は新年度にも残されている。

#### 3 スケジュール

- ・ 最初の半年（マニュアル化+出張旅費関係+J-DESC コアスクール）
- ・ 次の1年（IODP活動の戦略化議論[プロポーザル発掘，育成，戦略的試料採取，成果発表など]）
- ・ 最後の半年（ルーチンで機能するか見極め）

#### 4 マニュアル化進行中

- ・ 事務用手続きマニュアルは完了
- ・ 乗船者マニュアル・コチーフマニュアル船ごとに作成、航海ごとに追加、井龍氏などにはコチーフの仕事についてマニュアル化していただいた
- ・ J-DESC ヘルプデスクを新設一窓口一本化しトラブル対処

#### 5 J-DESC コアスクール

- ・ 会員機関への利益還元として、会員機関所属の大学院生には8000円の補助（来年度は10000円へ増額予定）
- ・ ICDPのボーリングスクールへの参加も呼びかけた
- ・ 一回につき25万円程度はJ-DESCより出ている。実際には講師旅費全額など出せないの、他からもまかなっている。
- ・ エキスパートコースを実施することで経験が少ない人へのフォロー。これは全額J-DESC負担で約100万円

#### 6 資金

- ・ J-DESC 自体の増収を目指す
- ・ 増収分はコアスクールなどに使い、全体のレベルアップを目指したい
- ・ 現在会員機関は一口となっていたが、投票権はこれまでと同数で複数口でもよいことにしたい
- ・ JAMSTEC から AESTO への委託費でプレクルーズトレーニング旅費、HUET 旅費、アフタークルーズワーク旅費支援が新設され支援が拡張された

## 7 海外

- ・ KJOD2007 報告：来年度は東シナ海のテクトニクスなどに関する日韓合同プロポーザルを作成したい。
- ・ ドイツとの関係：若手研究者の交流について前向きに取り組んだ

## 8 ICDP との相互理解

- ・ 「IODP 執行部会」と「陸上掘削部会」の懇談会を 12 月に実施

## 9 10 月以降は J-DESC の戦略を議論した

### J-DESC/IODP 部会の改革：

- ・ 委員による執行部と部会の兼任を可能にしたい
- ・ 科学推進専門部会の再編を検討開始
- ・ J-DESC と IFREE の連携による IODP 関連構造探査の進め方
- ・ プロポーザルをカテゴリーわけしての日本としての戦略議論
- ・ 日韓日独など国際交流に関する議論
- ・ 成果、その公表についての議論(国際誌投稿状況、成果公表に対する助成の検討)
- ・ 会員機関への利益還元
  - － 合同大会での情報交換を目的としたタウンホールミーティング開催(会員機関からの参加者は無料)

### 2008 年度の方針

- ・ J-DESC の改革
- ・ コアスクールの拡充(助成金を 1 万円に)
- ・ タウンホールミーティングの継続 (ファンディング機関とコミュニティとの交流)
- ・ 加盟機関増加の努力
- ・ 増収分はサマースクール等の経費に

質問：高知大海洋コア総合研究センター渡邊氏：資料中のアフタークルーズワークの記述について、正確に踏まえていないのでは?という気がします。JAMSTEC 高知コア研究所で開催するために旅費支援とありますが、現在のところそのようには聞いておりません。IODP の解析については高知にいるものとしては積極的に貢献したい。具体的にどうすべきか現在検討中です。IODP 関係の目的で高知にこられる方は JAMSTEC/高知大学分け隔てなく受け入れるべきです。

事務局：JAMSTEC 高知コア研究所という記載は、高知コアセンターとすべき間違いで、訂正いたします。

渡辺：訂正をお願いいたします。

川幡：アフタークルーズに関しては、できる場所であれば高知コアセンターに限定しない、という話をしています。高知コアセンターに関しては大学 JAMSTEC と制度も違いますので 5 月の執行部会で検討するという計画の最中です。誤解があったかもしれません。

## 陸上部会活動報告：防災科研：小村様（浦辺部会長代理）

資料 3 を参照しながら報告が行われた。

- ・ 陸上情報交換会報告：応募者も多く、情報交換という機会の必要性を実感した
- ・ ICDP ワークショップ開催報告：ワークショップ開催のプロポーザルに基づいて行われた。(COREF プロジェクト、南海トラフ掘削抗プロジェクト、北アナトリア断層掘削など、開催報告は J-DESC ニュースレターVol.2 に掲載)
- ・ 日本発 ICDP 掘削計画実現を目指す ICDP プロポーザル申請支援：今年度 3 件支援した。(COREF、Jim Mori 氏によるワークショッププロポーザル、琵琶湖掘削) 技術的面での助言や英訳支援などの検討を行った。
- ・ ICDP パンフレットの和訳：GFZ で作成されたものを和訳して国内でも流通させる目的。出版費用は ICDP から拠出される。合同大会（5 月）を皮切りに配布開始予定。タイトルは「ちきゅうの未知を掘る」
- ・ ICDP ドリリングスクールへの参加支援：昨年度は KTB のサイトで行われた。J-DESC は広報などで支援を行っている。昨年度は三名が参加。ICDP のみならず IODP 関係者にも広報して参加を募りたい。
- ・ 地質地盤情報協議会シンポジウムへの後援：試験的に後援名義による支援
- ・ 新体制への委譲：2007 年度で執行部員 2 年任期が切れるため合わせて執行体制が新しくなる。

質問：

特になし

2007 年度報告全体を通しての質問：

特になし

異議なども特に無く、報告を了承した

## 6. 2007 年度決算報告・承認 00:57:57

事務局より資料 4 を読み上げながら 2007 年度収支決算報告が行われた

- ・ IODP 部会是一部旅費精算が完了していないことに留意
- ・ 今年度旅費は七掛けで執行することになった。

陸上部会経費

- ・ 広報活動費はサイエンスプランの増刷 12 万円オーバー分は雑費より支出

監査報告 宮下純夫監査役

監査としては全体的な執行目的が、基本的には適切であったと認定しております。しかし、多額の繰越金が今年も出ております。それは会員が増えたことによる収入増という理由もあり、活動の成果でもあります。今後も経費執行がよりフレキシブルに適切になされるように努めていただきたい。

質問：特になし

承認挙手：過半数の挙手により決算は承認された

## 7. 陸上部会・執行部会長の選任承認

事務局より背景説明が行われた。

- ・ 平成 16 年度より勤めてくださった浦辺部会長から退任したいとのご意向があり、浦辺部会長の退任承認前に次の部会長の選任を行いたい
- ・ 新たに立候補されたのは東大地震研の佐藤比呂志氏

これに関しての承認拍手：過半数を認めた

## 8. 陸上掘削部会執行部会長挨拶

地震研の佐藤です。お引き受けした上には一生懸命働きたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

## 9. その他の役員選任

資料 7 に基づき事務局から新役員候補のお名前が発表された

- (1) 監査役：伊藤 孝氏
- (2) 対 AESTO 担当役：中田節也氏、小玉一人氏
- (3) J-DESC 理事：道林克禎氏
- (4) IODP 部会幹事：道林克禎氏
- (5) 陸上掘削部会幹事：桑原保人氏

承認の挙手：過半数にて新執行体制承認

## 10. 2008 年度活動方針について

**IODP 部会**：阿波根部会長補佐

資料 5 を参照し、ppt プレゼンテーションにより活動方針が報告された

- ・ 総会・幹事会・執行部会活動はほぼ従来どおり
- ・ IODP 部会専門部会活動：科学推進専門部会の改変検討中
- ・ 今年度は 3 件の国際パネル会議が国内で開催される予定
- ・ 2008 年度実施予定航海の報告、New Jersey では 3 名の辞退が出ており追加募集中。NanTroSEIZE ステージ 1 B は現在公募中。USIO 航海カンタベリーは二名追加募集中。ウィルクスランドは現在選考中。
- ・ J-DESC コアスクール昨年度実施上の問題点を議論し、実施体制の強化を図る
- ・ ニュースレター Vol.3 発行予定
- ・ ホームページの改訂作業中
- ・ キャンペーン：茨城、つくば、産総研、広島、愛媛など調整中
- ・ 5 月連合大会では J-DESC タウンホールミーティング企画
- ・ 9 月地質学会では日韓海洋掘削シンポジウム開催を準備中
- ・ 航海開始前のプレスリリースを積極的に行う
- ・ 国際面ではアジア諸国との連携を強化（日韓共同提案実現に向けて）

質問：特になし

陸上掘削部会：佐藤比呂志新部会長

資料 6 を参照し、活動方針が報告された

- ・ 新執行体制に移行した
- ・ ワークショップが受理された場合には、開催支援する
- ・ 日本発の ICDP 掘削計画の実現：新たなプロポーザルの発掘と有望な芽に対する支援
- ・ ICDP パンフレット、陸上サイエンスプランの広報を推進しながら陸上掘削の推進を図る
- ・ IODP 部会との協力：コアスクール、日独若手研究者交流、陸上コアによるコア観察記載スクールの実現

質問：特になし

2008 年度活動方針、異議なしにて承認

(休憩 10 分、15 時 40 分)

1 1. 2008 年度予算案提案・承認 01:49:25

事務局より修正版資料 8 に基づいて説明が行われた

- ・ 今年度は正会員機関が増加して、会費収入が増加
- ・ 秋田大学での地質学会において開催される日韓合同シンポに、韓国人研究者を招聘する予算が計上されている
- ・ 今年度旅費は実際の支出実績に基づき、ピーク時の 7 掛けで計算されている

質問、ご意見： KJOD の名称（日本でやるときは JKOD）なので JKOD が正解なのでは（宮下）

事務局：承知いたしました

承認挙手：過半数にて承認

1 2. その他

(1) 掘削提案の育成に関する計画指針と科学推進専門部会の再編について

IODP 部会執行部会検討 WG：山本（JAMSTEC）

ppt による報告が行われた

- ・ 日本人プロポーネントの掘削提案のいくつかはすでに実行段階にきている
- ・ 2013 年以降新しい掘削提案が出てくるための戦略が必要
- ・ 科学推進専門部会にはタスクが多すぎ、(国際パネル対応、乗船研究者選定、掘削提案育成) 航海が始まると乗船研究者対応への比重が多くなっている現状
- ・ プロポーザルが提案された後の段階を理解したうえでの掘削提案育成対応が必要
  1. 掘削提案の芽を探す
  2. プロポーザルを書く段階、全く初めてプロポーザルを書く若手へのアドバイス
  3. プロポーザルが SAS にあがってからの対応
- ・ プロポーザルを書く人を育成するために、若手を航海や SAS へ送り出して学んでもらう
- ・ 学生レベルの方に掘削科学をアウトリーチ

- ・ 2013年以降のIODPを見据えて、ワークショップ・シンポジウムをJ-DESC自身が提案していく、また芽があるのならば支援していくことが必要
- ・ 当面の対策として、執行部会と連携の上専門部会の役割・再編をする必要があるため以下の二つの専門部会を立ち上げたい  
調査航海専門部会：現段階で稼動している調査航海のサポートに特化  
掘削研究専門部会：先を見据えた掘削提案の育成
- ・ 最後に、委員の兼任をご許可いただきたい

#### 質問・意見：

委員数を減らすということも考えたい。日本のコミュニティは人数が少ないにも関わらず多数をローテーションせねばならない。10年15年やっていくにはコンパクト化は日本のためになる。(川幡)

#### (2) 会員機関現状報告

資料9をもとに事務局より説明・報告が行われた

- ・ 昨年度3機関に正会員として新規加入いただいた
- ・ 平成20年度も正会員3機関に加入内諾をいただいている
- ・ 賛助機関1機関に新規加入いただいたが、昨年度退会された機関もあった

#### (3) J-DESC会費の口数増加について (川幡 IODP 部会長)

- ・ 現在一機関一口10万円と制限されているが、機関によって数人で一口、数十人で一口、など偏りがある。
- ・ 数口いただいても投票権は一票ということは保持してほしい。
- ・ 予算の繰越があるのだが、旅費も増加する見込みであるし、J-DESC コアスクールは実際には100万円以上かかっており、今のストックは一年以上持たないだろう。新規事業開始・継続のためには口数の増加を認めていただきたい。

口数増加可能化への(特に反対の)ご意見：特になし、方針として承認

事務局より補足：規約の改定が必要になる。今回改定の方向で承認を得たということで、後日メールベースの総会を開き、規約を改定する。

#### (4) J-DESC 法人化 WG 報告

J-DESC 法人化 WG 徳山世話人より報告がなされた。

- ・ 法人化 WG 立ち上げの時には掘削科学の研究者グループのマネーフローの受け皿が無かった。そこで法人化を考え、文科省から直接お金が流れるように出来ないか?という趣旨で議論が始まった。
- ・ 公益法人は税金の問題がかなり厳しい。5年間税金を納めることが前提、公共事業5割以上、などの規制があり、かなり趣旨が合わなくなっている。総会規定・理事規定も違った内容で作り変えねばならない。
- ・ 法人化WGで議論の結果、当面は法人化グループを収束させようという結論に。
- ・ いずれ USSSP などのように自立したものを立ち上げる機運が高まればその際にアクションしたい。何も出来なくて申し訳ありませんでしたが、これをもちまして休眠させて頂きたく提案したい。



質問・意見：特になし

報告を了承し、WG を休眠させることで承認した

(6) JPGU 地球掘削科学セッションタウンホールミーティングについて  
JPGU 地球掘削科学セッション (井上執行部委員より報告)

- ・ 火曜日午前中にセッション二コマ分
- ・ オーラル 11、ポスター 12 件の応募あり
- ・ ポスターコアタイム後にタウンホールミーティング開催

タウンホールミーティング (川幡 IODP 部会長より報告)

- ・ 27 日火曜日に IODP/ICDP 共催にて開催
- ・ 立ち席形式で、はじめ 30 分間情報を流す
  - 文科省宿利企画官からコミュニティに対するお話
  - IODP/ICDP インフォメーション 5 分くらいずつ
- ・ その後飲食しながら情報交換。ある程度年齢の高い方は、必ず学生さんを引っ張ってくる。青年壮年老年の情報交換を趣旨とする

(7) 高知コアセンターの MRC 機能 (川幡 IODP 部会長)

川幡部会長より、PPT を用いての、MRC 機能の簡単な解説が行われた後、東北大学尾田氏より趣旨についてのご説明

- ・ 微化石サマースクールを J-DESC コアスクールに入れていただきありがとうございます。スクールを通じて微化石ネットワーク、MRC ネットワークの拠点が必要だと思っている。
- ・ 掘削科学においては総合年代学 Age model が非常に重要であり、コアセンターに総合年代学の拠点を作って頂きたい。
- ・ 微化石コミュニティとコアセンターとの連携を、MRC 機能も含めて展開できたら良いだろう、という微化石コミュニティからの提言であるが、
- ・ 上記提言に対して J-DESC のご支援をいただきたいというのが趣旨。よろしく願いいたします。

川幡：先ほど執行部会でも議論したが、年代が決定できないとコアの研究も出来ない。執行部会として、こういうお話はプッシュしていいという結論であった。

渡邊：高知コアセンターとして非常にありがたい話。おそらく大学がかなりの部分をやらねばならないのではと考える。それを踏まえて、それを大学に持ち帰り上層部にもあげ、協同研究機関として全国の研究者の意向に沿った運用を考えていきたい

斎藤：J-DESC としても高知コアセンターの学術機能を高めるにも、発展的に良いのではないかと考えている。大学のほうへ改めてお願いに参りたいと考えますのでよろしくお願いいたします。

ご提案方針を承認した

## (8) その他

特になし

### 13. 議長解任

同志社大学林田氏への拍手にて議長を解任

海洋地球課の宿利企画官からのコメント：

宿利でございます。本日は総会傍聴させて頂きました。この一年間斎藤会長、川幡・浦辺両部会長のもので非常に活発に活動されていることを拝見しました。文科省でも予算を獲得して何とか支援しているとしております。その中でも一番大きなトピックは「ちきゅう」が国際運用掘削航海を始めた、ということです。国内のみならず海外メディアからも取り上げられています。画期的なことでした。ICDPもIODPとの連携を図る、という取り組みは非常に素晴らしいことだと思います。

これからIODPの2013年以降の枠組みを検討していく、科学計画の改訂という流れがあり来年秋に国際会合も計画されるということでございます。是非とも掘削科学を発展させるために我が国としても方向性を定めながら取り組んでいく必要があります、中核を担うJ-DESCの科学者の皆様のご尽力が不可欠であると思っております。さまざまな面で情報提供やご支援は一生懸命させて頂こうと思っております。

課題もまだあるだろうと思えます。法人化については、制度的な難しさがあります。また、予算の獲得ということについてもこれまでは、「ちきゅう」を運用する、ということを経営にアピールしてまいりましたが、今後はこのような成果が「ちきゅう」以外のIODP研究航海も含めて、追及できるのです、と訴えていくことが今後非常に大事になると思えます。2013年以降国内でも掘削関係の活動について、3年毎に評価するという流れが出てくると思えます。先生方の活発な研究成果のアピールが鍵を握ります。行政の最近の動きでは、海洋基本法が成立し、3月には海洋基本計画を政府で作成しています。海洋分野政策の部分では、科学的知見の充実が基本理念にうたわれております。IODP推進は海洋基本計画の中に位置付けさせて頂きました。

一方行政改革の関連で、海洋研究開発機構と防災科研の統合という方向がでましたが、前向きな発想で地球科学防災分野も総合的に推進できるように志をお持ちいただければと思います。長くなりましたが本日の総会のお祝いをしますとともに皆様方の今後の発展を記念いたします。私どもも一緒に頑張りたいと思います。4月に異動で杉山から笹山が行政調査員に入っていますのでよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

事務局資料訂正：資料7部会幹事竹下氏は2007年度から北大鈴木氏となる

### 14. 閉会挨拶

佐藤陸上新部会長

今日はお休みのところ長時間にわたり総会への出席ありがとうございました。これにて終了とさせて頂きます。